



GeneAceシリーズから1ステップ RT-qPCR 試薬が登場!

# GeneAce One Step RT-qPCR Mix

本品は1ステップリアルタイムRT-qPCR用試薬です。

Hot Start Taq DNA Polymerase、改変型 M-MLV Reverse Transcriptase、最適化されたバッファーとの組み合わせにより、高い増幅効率と特異性を実現しています。インターカレーター法および蛍光標識プローブ検出系のそれぞれに最適化した試薬をラインアップしています。

## 高い特異性と増幅効率

抗Taq抗体が結合したホットスタートPCR用酵素を採用し、優れたCt値で立ち上がり早く(SYBR™)、Low Copyでも安定した増幅が可能です(Probe)。

## SDS耐性の向上

PCR阻害物質であるドデシル硫酸ナトリウム(SDS)存在下でも効率的な増幅が可能です。

## 簡易RNA抽出試薬と組み合わせ可能

簡易核酸抽出試薬により得られた粗抽出RNA溶液を鋳型として、ダイレクトにリアルタイムPCRが可能です。

## 各種リアルタイムPCR装置に対応

パッシブリファレンス色素が予め添加済みのためROX補正の有無にかかわらず各種リアルタイムPCR装置で使用可能です。

## 圧倒的コストパフォーマンス

**希望納入価格(税別) ¥142<sup>※1</sup>/反応** (20 µL反応系)

※1 500反応用(20 µL反応系)の場合

製品名	Code No.	容量	希望納入価格(税別)
GeneAce SYBR™ One Step RT-qPCR Mix <sup>※2</sup>	315-09743	500反応用 (20 µL反応系)	¥71,000
	319-09741	125反応用 (20 µL反応系)	¥32,000
GeneAce Probe One Step RT-qPCR Mix	312-09753	500反応用 (20 µL反応系)	¥71,000
	316-09751	125反応用 (20 µL反応系)	¥32,000

※2 SYBR™は、Thermo Fisher Scientific社の商標です。

・本パンフレット掲載の製品仕様や価格を予告なく変更する場合があります。・掲載の価格は2026年1月現在の希望納入価格(税別)です。最新情報は弊社HPをご確認ください。

製造元 **株式会社ニッポンジーン**

〒930-0834 富山市問屋町二丁目7番18号  
TEL: 076-451-6548 FAX: 076-451-6547  
URL: <https://www.nippongene.com>

販売元 **富士フイルム 和光純薬株式会社**

本社 〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 TEL: 06-6203-3741 (代表)  
東京本店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目4番1号 TEL: 03-3270-8571 (代表)  
フリーダイヤル 0120-052-099 フリーファックス 0120-052-806

《125反応用》  
トライアルサンプル  
ご提供中!

富士フイルム和光純薬(株)  
の代理店・特約店から  
ご依頼いただけます。

## 構成

### GeneAce SYBR™ One Step RT-qPCR Mix

構成	500反応用	125反応用
2 × GeneAce SYBR™ One Step Mix	1.25 mL × 4本	1.25 mL × 1本
40 × RT Mix (for SYBR™)	63 µL × 4本	63 µL × 1本

### GeneAce Probe One Step RT-qPCR Mix

構成	500反応用	125反応用
2 × GeneAce Probe One Step Mix	1.25 mL × 4本	1.25 mL × 1本
40 × RT Mix (for Probe)	63 µL × 4本	63 µL × 1本

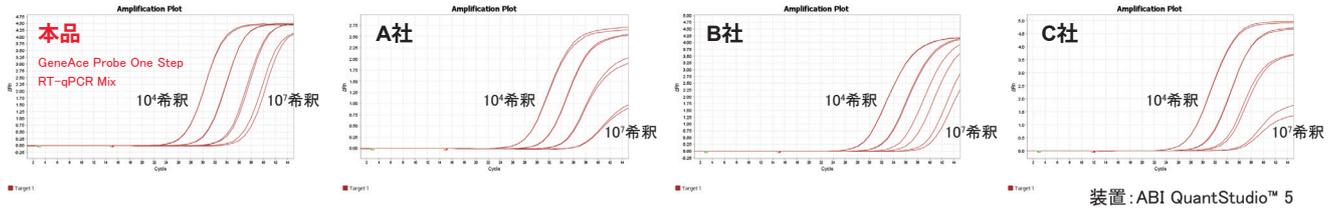
## 推奨 PCR サイクル

50°C	10 min.	逆転写ステップ	) 45 cycles
95°C	2 min.	初期変性ステップ	
95°C	10 sec.		
60°C	45 sec.*		

\*増幅鎖長が200 bp以上の場合は、サイクル内の伸長時間を45-60 sec.に変更することを推奨します。

## 実験例 1 増幅効率の比較 (Probe)

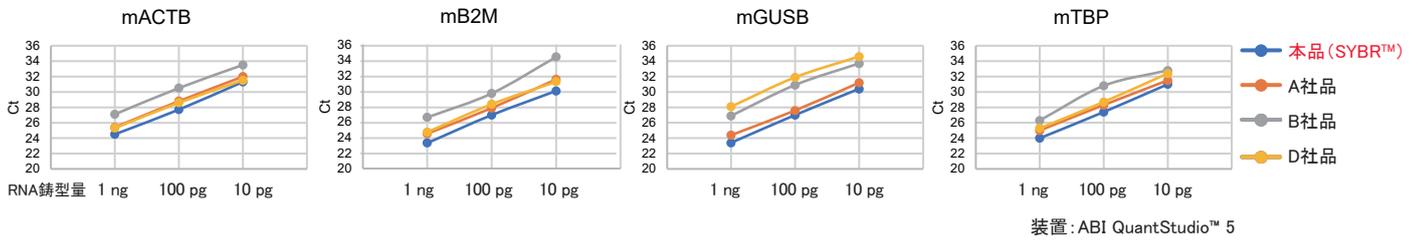
H1N1 Influenza RNA(10<sup>4</sup>, 10<sup>5</sup>, 10<sup>6</sup>, 10<sup>7</sup>希釈)を鋳型として用いて、各社1 step RT-qPCR試薬によりFlu M遺伝子のCt値を比較した。PCRサイクル条件は各社の推奨プロトコールに従って実施した。



【結果】本品は他社試薬と比較して微量RNA試料(10<sup>7</sup>希釈)に対しても高い増幅効率を得られることが確認された。

## 実験例 2 増幅効率の比較 (SYBR™)

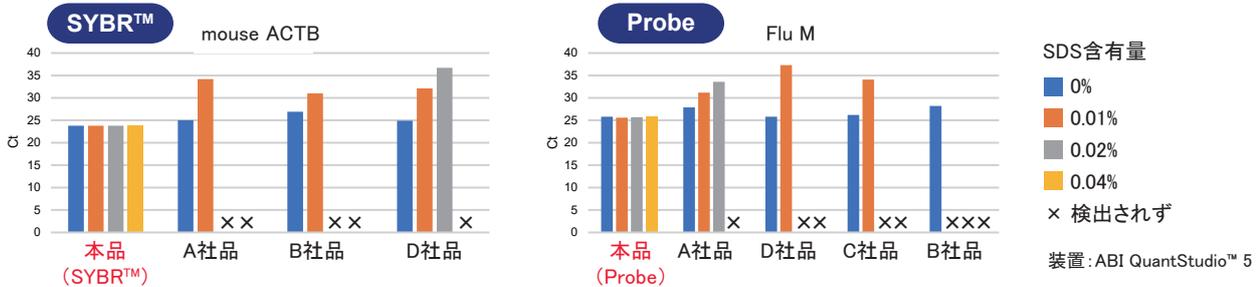
マウスから抽出したTotal RNA(1 ng, 100 pg, 10 pg)を鋳型として用いて、各社1 step RT-qPCR試薬を使用してCt値を比較した。PCRサイクル条件は、各社の推奨プロトコールに従って実施した。



【結果】各遺伝子の各鋳型量において、本品は最も低いCt値を示し、高い増幅効率を確認された。また、各鋳型量において高い直線性が得られたことから、鋳型濃度が低い条件でも安定した増幅が可能であることが確認された。

## 実験例 3 SDS耐性の比較 (SYBR™ / Probe)

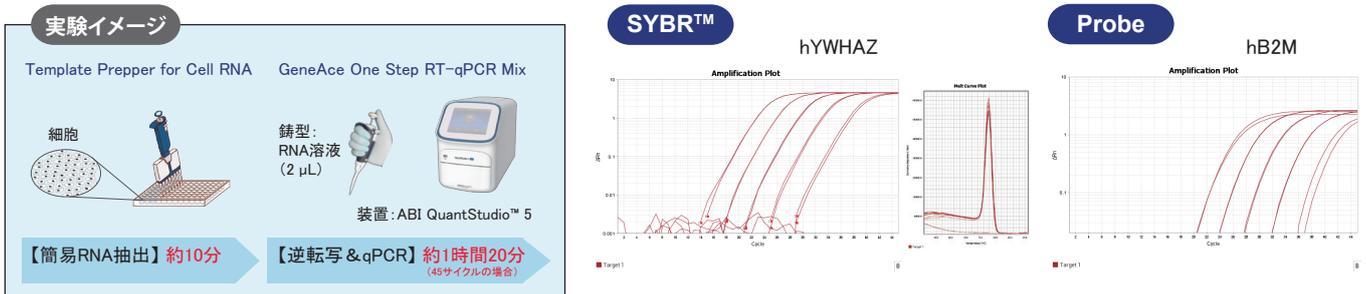
SYBR™検出系はマウスから抽出したTotal RNA(100 pg)を鋳型に、Probe検出系はH1N1 Influenza RNA(10<sup>4</sup>希釈)を鋳型として用いて、SDSの最終濃度が下記濃度となるように添加し、1 step RT-qPCRを行いCt値より増幅効率を比較した。PCRサイクル条件は、各社の推奨プロトコールに従って実施した。



【結果】本品は各SDS濃度において、高いSDS耐性を示した。

## 実験例 4 簡易RNA抽出試薬との組み合わせの検証 (SYBR™ / Probe)

Jurkat細胞(10<sup>5</sup>, 10<sup>4</sup>, 10<sup>3</sup>, 10<sup>2</sup>, 10<sup>1</sup> cells /extraction)から、簡易RNA抽出試薬「Template Prepper for Cell RNA(Code No. 318-09451)」を用いてRNAを抽出した。そのうち2 μLを鋳型として、各種遺伝子を検出する1 step RT-qPCR(SYBR™系およびProbe系)を実施した。



【結果】本品と簡易RNA抽出試薬「Template Prepper for Cell RNA」を組み合わせることで、RNA抽出からqPCRまでの工程を大幅短縮することができた。